

世界の柑橘類主要輸出国の概要(2023年)

[FreshFruitPortal](#) 2024年12月5日

東南アジア原産の柑橘類の果実は、その豊かな風味、用途の多様性、さらに栄養的な価値のおかげで世界中に広まった。柑橘類は、文化や地域をつなぐ最初の交易ルートの主役であっただけでなく、今日では世界貿易の重要な柱となっている。柑橘類の輸出は地域経済を牽引し、世界中で高まる新鮮で健康的で持続可能な食品に対する需要に応えている。柑橘類は、ビタミンC含有量の高さ、食品業界での使用、及び持続可能な製品を求める市場の注目度の高まりにより、世界貿易において重要な役割を果たしている。

主要な輸出業者は、しっかりしたサプライチェーンを開発し、市場を多様化し、製品の品質と見せ方を改善する技術を採用している。柑橘類は単なる果物ではなく、多くの国において経済的な原動力であり、何千もの雇用を生み出し、地域全体を有力な産地として強化している。その影響は国境を越え、(柑橘類の生産や取引は)世界のアグリビジネスにおける技術革新、競争力、及び発展を表している。

スペイン: 生鮮柑橘類の輸出で世界をリード

主な品目: オレンジ、マンダリン、レモン

主要輸出先市場: ヨーロッパ、特にドイツ、フランス、英国

競争上の優位性: 高度な収穫後処理技術、欧州の主要市場への近さ、品質と持続可能性の認証

スペインは、世界の生鮮柑橘類輸出量の約25%を占めている。

南アフリカ

主な品目: オレンジ、レモン、マンダリン

主要輸出先市場: ヨーロッパ、中東、アジア

競争上の優位性: 北半球市場への季節補完性(季節が逆)、効率的な生産、高い品質

中国: 生産と輸出の巨人

主な品目: マンダリン、グレープフルーツ(ボメロ及びザボンを含む)、オレンジ、レモン。特にマンダリンとその種なし品種は、国際貿易で非常に需要がある。

主要輸出先市場: 東南アジア、ヨーロッパ、米国

競争上の優位性: 世界最大の柑橘類生産国であり国内消費と輸出の両方をカバー、その高度なインフラは世界市場での輸送と販売を促進、品種の開発と現代的な農法の進展

トルコ

主な品目: マンダリン、レモン、オレンジ

主要輸出先市場: ヨーロッパ、ロシア、中東

競争上の優位性: 競争力のある価格、ウンシュウミカン等の品目の生産量の増加

課題: 経済と気候の不安定性

エジプト

主な品目: オレンジ、レモン

主要輸出先市場: ヨーロッパ、ロシア、中東

競争上の優位性: 競争力のある価格、ヨーロッパへの地理的な近さ、農業技術の進歩

米国

主な品目: レモン、オレンジ、グレープフルーツ

主要輸出先市場: カナダ、韓国、日本

競争上の優位性: 認知された高品質ブランド(カリフォルニア州及びフロリダ州)、よく発達した輸出物流

課題: 高い生産コストと新興国との競争

メキシコ

主な品目: レモン(特にペルシャレモン(タヒチライム)とメキシカンレモン(メキシコライム))、オレンジ、マンダリン

主要輸出先市場：米国、カナダ、ヨーロッパ、アジア

競争上の優位性：最大の柑橘類消費国の一つである米国への地理的な近さ、国際市場で価値が高い品種の大規模生産、他の生産国からの出荷が難しい時期に世界市場へ供給できる収穫期

課題：南半球諸国(アルゼンチン、南アフリカ等)との競争、世界的な供給による価格変動

モロッコ

主な品目：マンダリン、クレメンタイン、オレンジ、レモン

主要輸出先市場：北米とヨーロッパ

競争上の優位性：ヨーロッパへの地理的な近さ、種無し品種の生産の急成長

課題：地中海地域での競争の激化

出典：[Fluctuante](#)